

兵庫医科大学大学院 看護学研究科

わたしの未来をempower

大学院オープンキャンパス



修了生の感想

土日の昼間中心の講義や長期履修制度は、本当にありがたかったです

臨床の仕事で疑問や知りたいことが出てきても、具体的にどう追究すれば良いのかわからず、忙しさの中に埋没していく日々をおくっていました。しかし、大学院ではその研究手法を学ぶことができると知り、**もう一度看護を勉強し直してみよう**と考え進学を決意。入学直前に出産予定だったので、土日の昼間中心の講義や長期履修制度は、本当にありがたかったですね。担当教授もとても親身になって考えてくださるので、安心して勉強に打ちこめています。

私が大学院で研究したのは、「2型糖尿病患者の炭水化物摂取に関する認識」について。

世間では炭水化物に関する話題が注目されていますが、意外なことに研究の結果、2型糖尿病患者様が抱えている炭水化物への認識は曖昧なものでした。**今後は研究で得られた新たな知見を看護実践に取り入れ、炭水化物と食後血糖値の関係を患者様に理解してもらったり、血糖値が上昇しにくい食事方法などの教育を実践していきたいと考えています。**

2022年、春。兵庫医科大学と兵庫医療大学は統合しました。

兵庫医科大学大学院看護学研究科で、あなたの次の可能性をみつけにいきましょう。

2024. 6.9

14:00-15:30

兵庫医科大学神戸キャンパス

M487 ZOOMによるオンライン参加も可能

- 内容
1. 修士課程の概要説明
 2. 外国語（英語）の受験対策講座
 3. キャンパスツアー
 4. 大学院生、修了生との懇談会
 5. 研究科教員との個別相談

※科目等履修で修得した科目は看護学研究科修士課程に入学後、単位認定可能です

1期出願期間： 9/1（金）から 9/8（金） 試験日： 9/23（土）

お問い合わせ： 神戸教学課大学院係 daigakuin@ml.hyo-med.ac.jp

 兵庫医科大学

兵庫医科大学大学院 看護学研究科

1. 専門性を重視した教育・研究者を育成するためのカリキュラム
2. 高度看護実践者を育成するためのカリキュラム
3. 教育・研究を活性化させる環境

選べる2つのコース

看護学基礎研究領域

研究能力を育成する領域です。日々の看護現場で気づいた疑問を、どのように具体的な研究に結びつけるのかについて教員が丁寧に指導します。また、研究課題に沿って研究計画・データ収集・分析を行い、学位論文として修士論文を作成します。

看護学課題研究・高度実践領域(CNS)

看護実践能力を育成する領域です。複雑な看護問題を持つ個人や集団を対象に、合計10単位(10~15週間以上)程度の臨地実習を行い、質の高い看護実践を学びます。また、看護実践の質向上を追求する課題研究報告書を作成し、それを学位論文とします。

基盤看護学

土田敏恵(基礎看護学)、鈴木みゆき(基礎看護学)

基礎看護学 看護実践に基づく看護技術を探求します。授業や研究プロセスを通して、理論や倫理、研究方法論を深く学び、研究に必要な基礎的能力を修得します。研究テーマは、対象者の発達段階や特定の健康課題に限定せず、院生の関心のある看護実践・看護技術・看護現象に焦点化して研究を進めています。看護実践・看護技術の科学的検証に関する研究、看護の専門性に基づく技術(皮膚排泄ケア・感染防御)に関する研究、看護現象の理解を深める研究などに取り組んでいます。

療養支援看護学

神崎初美(慢性看護学)、府川晃子(がん看護学※)、森一恵(急性看護学※)、藤本浩一(精神看護学)、井上満代(慢性看護学)

慢性看護学 慢性病とともに生きる人とその家族が最適な健康状態を維持するための課題を見極め、それを解決するための看護実践や保健医療福祉のあり方を科学的に探究します。慢性看護の基盤となる概念・理論に関する知識や諸研究の学修、臨床現場の課題や疑問に関するディスカッションやフィールドワークから、研究テーマを絞りこみ、自らの力で看護研究を実践する力を養います。

がん看護学 ※ がん看護学分野では、多角的な視点でがん患者を理解して質の高いケアを提供する高度実践看護師や、がん患者・家族が抱える問題や臨床での課題を探究し、研究を実践に結びつくエビデンスとして臨床に還元できる人材の育成を目指します。日本人の二人に一人はがんになる時代と言われ、がんは、気長につきあう慢性疾患のひとつとも考えられるようになりました。がん患者やその家族は疾患とともに長いプロセスを歩み、その場面ごとにさまざまな問題に直面します。その伴走者である看護師として、病気と一緒に生きていくがん患者を最善のかたちで支えられるよう、よりよいがん看護について考えていきましょう。

急性看護学 ※ クリティカルな状況にある患者・家族の健康問題や倫理問題を探求します。患者の生命の維持・回復、苦痛の緩和、セルフケア能力の回復、QOLの向上を目的とした看護援助技法、家族への支援などを含む専門的な看護を提供できる看護実践能力を育成します。また、クリティカルな状況にある患者・家族への新しい看護援助技法の構築、あるいは看護の質向上に貢献できる知見を見いだすための研究能力を育成します。

精神看護学 精神看護の基盤となる概念や理論、精神障害の病態や治療に関する最新の知見に関する学修を通じて、精神障害とそれに起因する生活のしづらさをもつ人々を支援していくうえでの課題を探求します。入院中の患者から地域で生活する療養者まで、多様な状況にある精神障害者とその家族への新しい援助技法の開発、あるいは看護実践の質向上に寄与する知見を見いだすための研究能力を育成します。

家族支援看護学

西村明子(母性看護学)、田村康子(助産学)、石原あや(小児看護学)、藤井加那子(小児看護学)

小児看護学 子どもとその家族を取り巻いている社会状況や生活を理解し、入院、在宅に関わらず医療を必要とする子どもが示す心身の反応や看護師との相互作用について探求します。また慢性疾患などの健康障害を持つ子ども、親、きょうだいがかかっている健康問題や課題、あるいは不適切な親子関係や現在の子育てにおける課題を解決するための看護支援について実証的な研究を行います。

母性看護学 女性のライフサイクル各期を中心とした健康支援について、疾病中心の医療と看護の視点に留まらず、文化的、歴史的、社会背景も勘案した健康課題を探求します。リプロダクティブヘルス/ライツを根幹に据えて、女性、パートナー、家族へのケアを講義や演習などの学修を通して見つめなおし、臨床に役立つ研究ができる力を養います。

助産学 周産期や子育て期にある女性と家族の健康課題、性的健康に関するあらゆる年代の健康課題、助産について探究します。演習を通して、日々の臨床実践で気になっている現象を見つめなおし、関連理論の講義や先行研究のクリティークを重ね、現象や助産の対象となる人々に関する理解を深めるとともに、研究疑問に取り組み基礎的な研究能力を習得します。

生活支援看護学

今野理恵(老年看護学)、堀口和子(在宅看護学)、廣金和枝(地域看護学)、鈴木千枝(在宅看護学)

老年看護学 加齢の変化や疾患・障がいをもつ生活者として高齢者をとらえ、高齢者の健康問題や高齢者をとりまくケアシステムのあり方、倫理的問題についてアセスメントし、高齢者が健康的な生活を維持できるよう、老年看護に必要な概念や理論、健康生活評価方法等を修得し、高度な専門的援助を実践し、また看護方法の研究・開発を行う能力を備えた人材を育成します。

地域看護学 地域社会の個人/家族、集団/組織、コミュニティを対象に、顕在・潜在している健康課題の解決のための支援について探求します。また、地域で生活する人々を対象とした地域看護支援技術の開発と評価方法について実践的な研究を行います。

在宅看護学 在宅看護の基盤となる制度や理論および概念・看護モデルなどを学修します。その上で、在宅療養者および介護家族の健康生活の向上、在宅看護実践の質的改善、介護家族への支援方略、在宅ケアシステムの構築など、在宅看護の知識体系の発展に寄与する知見を探究します。在宅看護領域における臨床疑問や研究課題を明確化し、科学的プロセスを踏まえて研究していく能力を育成します。